



明治初頭のジェラール工場(現中区元町1-77)

開港のひろば

NEWS YOKOHAMA ARCHIVES
OF HISTORY

- 編集・発行／横浜開港資料館 横浜市中区日本大通3 電話 045(201)2100
- 発行日／昭和60年5月1日
- 印刷／(有)三信印刷所

〒231
企画室

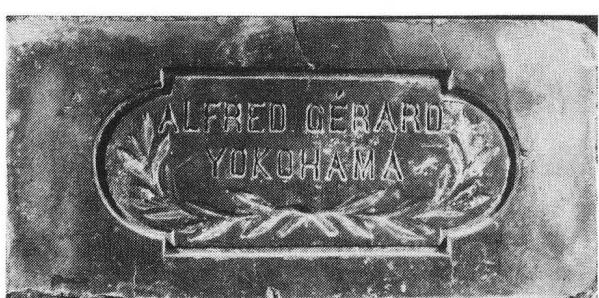
収蔵資料の紹介

ジエラールの瓦と煉瓦

横浜の都市形成史を理解するうえで、古写真や絵葉書、地図などのビジュアルな資料とともに、实物資料を欠かすこととはできない。そのすべてを収集できるものでもないが、なかから横浜ゆかりの瓦と煉瓦を紹介しよう。

ジエラール(ALFRED GERARD)のフランス瓦、すなわちいわゆるジエラール瓦は、これまでにもたびたびとりあげられており、すでによく知られた存在となっている。御所蔵になつてある方もおられるかと思う。当館も百枚以上のジエラール瓦を所蔵している。

ジエラール瓦は、棟瓦など特殊な瓦を除いて分類すれば、(1)「A. GERARD・1873 YOKOHAMA」(2)「A. GERARD・1873 YOKOHAMA」(3)無紋の「A. GERARD'S STEAM TILE & BRICK WORKS・A YOKOHAMA」の銘をもつ後期型(?)の三種に分けることができる。製造年では、一八七三(明治六)年が確認されている最も古いもので——もちろん初期型——新しいほうでは中期型と後期型とで一八八九(明治二)年のものが見つかっている。もともと、年号を入れていない初期型や、年号を消している後期型があるので、いつからいつまで製造されたのかは簡単には即断できない。



ジェラール煉瓦

**A. GERARD'S
STEAM
TILE AND BRICK WORKS,
HQNMUEA, YOKOHAMA.**

THE MANUFACTURE OF FRENCH
TILES IN Yokohama having been
successfully established and in operation for
several years past, fraudulent imitations
(but of very inferior quality) are being
passed off on purchasers as genuine. The
public is therefore warned against buying
the spurious hand-made tiles, fraudulently
marked with the name of "A. Gassan,"
and are requested to

PURCHASE DIRECT
AT THE
Sole Manufactory in Yokohama,
OR AT THE
Office of the Undersigned.

By this means they will insure the genuine
article, made by expensive and powerful
machinery, expressly imported from France
for the purpose.

This article is manufactured at the Works,
where samples of the Tiles, Brick, and other
factory productions may be seen; or at the
Office of the undersigned.

J. REYNAUD,
No. 157.
Tokohama, Sept. 4, 1890.

偽物注意の新聞廣告

ところで、ブランド製品の例に限れば、ジエラール瓦にも偽物が存在した。ジエラールの瓦をおそらくは手本として、日本の瓦師が見様見真似で焼いたフランス瓦がなかつたわけではない。しかし、その瓦には「植松直正」、「田村信次」といった製造者名が入つておらず、これを偽物とするには酷いものであろう。ここにいう偽物とは「A. GERARD」のブランド名入りの偽物である。横行にたまに見かけたのが、ジエラールは一八八〇(明治二三)年九月、英字新聞に偽物注意を呼びかける廣告をだしている。中期型の登場には、この偽ブランド(五頁下段へ続く)

館長対談

早稲田稔氏を迎えて

今回は、横浜市下水道局で横浜下水道史の編さんがあたられている早稲田稔氏をお迎えして、横浜における草創期の下水道をめぐるお話を伺うことになりました。

館長 下水道が都市の住民の生活にとって不可欠なものであるという認識は、今日では常識となつてゐるわけですが、そうでありながら都市の基幹施設のなかで整備の一一番遅れたのが下水道であつたかと思います。これは上水道と好対照で、上水道の方は、各都市で早い時期に大きな問題としてとりあげられています。歴史の面でも、上水道の歴史にくらべて、下水道の歴史の研究自体もたち遅れいるという氣もします。そんななかで、早稲田さんは横浜の下水道史に取組んでおられるわけですが、ます、調査研究によりかかつた始める頃の、資料探しの御苦心あたりからお聞かせいただければと思います。

早稲田 わたしは技術者でも歴史家でもありませんで、たまたま、前任者が亡くなられて一時中断していた横浜市下水道史の編さんを手伝うことになつたわけですが、横浜市自体に下水道に関する歴史資料というべきもののがありません。

昭和六年に横浜市が作成した下水道調査計画説明書に、明治一七年にはじめて下水道をつくったと書いているだけです。全国的には、昭和二年に刊行された『中島工学博士記念 日本水道史』という大著がありまして、上下水道史の基本文献になつていますが、横浜の下水道にはふれられておりません。

『明治工業史 土木篇』(昭和四年)も同様です。郷土史でも『横浜沿革誌』(明治二五年)、『横浜市史稿』(昭和七年)に下水道の記載はありません。わずかに『横浜開港五十年史』(明治四三年)が居留地について明治初年の陶管下水道その後の改造下水道について一節をあてて記述しており、『横浜市史』は居留地整備のところで下水道の建設経緯を詳述しています。

その後の改造下水道について一節をあてて記述しており、『横浜市史』は居留地整備のところで下水道の建設経緯を詳述しています。簡単に参照できるものはこの程度でした。こういった文献を手がかりに、引用資料にあたりながら、Oが何であるのかも解りませんで、この資料館ができるから、

『太政類典』や『公文録』はもとより、イギリスの資料なども簡単にみることができますようになつて、調査が大変しやすくなりました。それから、ここ数年間に、開港広場の煉瓦造マンホールもさうですが、いろいろな下水道の遺構が発見あるいは発掘されてきました。

それから、ここ数年間に、開港広場の煉瓦造マンホールもさうですが、いろいろな下水道の遺構が発見あるいは発掘されてきました。それが、文献資料と実物資料の遺構があつてそれに対応する文献ですが、文献資料と実物資料の遺構があつてそれに対応する文献にはじめて下水道をつくったと書いているだけです。全国的には、

昭和二年に刊行された『中島工学博士記念 日本水道史』の編さんにはじめて下水道をつくったと書いているだけです。全国的には、『明治工業史 土木篇』(昭和四年)も同様です。郷土史でも『横浜沿革誌』(明治二五年)、『横浜市史稿』(昭和七年)に下水道の記載はあります。わずかに『横浜開港五十年史』(明治四三年)が居留地について明治初年の陶管下水道その後の改造下水道について一節をあてて記述しており、『横浜市史』は居留地整備のところで下水道の建設経緯を詳述しています。簡単に参照できるものはこの程度でした。こういった文献を手がかりに、引用資料にあたりながら、Oが何であるのかも解りませんで、この資料館ができるから、



遠山館長

『早稲田』 明治、大正期に下水道事業に着手した都市は、かなりきちんとしたものをつくっています。仙台では、明治三六年に『仙台市下水道誌』を編さんしていますし、名古屋、東京にもあります。大阪は、二年前に『大阪市下水道事業誌第一編』を上梓しています。このほか、戦後の事業史をまとめた都市はかなりあります。また、現在日本下水道協会が、全国レベルでの日本下水道史の編さんを行っています。

館長 いまお話でましたプラントンの下水道計画や煉瓦造下水道については、このほど早稲田さんがまとめられて、当館の紀要に発表していただき予定になつていていますが、その概略をお願いします。

早稲田 今日は横浜市の下水道局に載せた年表(第三七号 昭和五八年四月)を補正してもつてきましました。開港一年後の一八六〇年八月、英、米、蘭三国領事がまとめて神奈川地所規則は、「必要に応じ下水道を造らねばならない」と決めた。これには日本側は署名していないのですが、翌一八六年七月から旧居留地、中華街のある一帯ですが、この地域の周囲にかなり大きい石造の排水路が築造され、これは古写真で確認することができます。その頃には旧居留地道路に幕府が幅三〇センチ、深さ三〇センチの木製の側溝をつくっていましたが、一八六三年八月から翌年四月にかけて、幅六〇センチ、深さ六〇センチの石造に改修、拡張しました。『続通信全覽』には、この工事期間と勘定方が検分にきて設計図通りにできたと確認したことだけが記録されていますが、F・Oによつて改修、拡張工事だったことが分りました。これについて居留民団体が、覆いのない下水は下水道の名にあたらない、暮府がやつてることを領事団が承認しているのはけしから中止させろ、と英國領事に抗議し、横浜在住の英國将校が地下に埋める橢円形の石造下水道を設計しています。このような状態で

明治政府になり、プラントンが来日し、居留地全体の下水道整備にあたることになるわけです。

館長 プラントンは日本の灯台の父として名高いお雇い外人技師ですが、横浜の下水道整備に関係するようになるのは。

早稲田 プラントンの所属した灯台役所は、めまぐるしく所管がかわりますが、明治三(一八七〇)年民部省灯台掛になるまでは神奈川県の管掌下にありました。そんなことから、下水道のみならず、

横浜居留地と周辺の都市整備全般に関係することになり、一八六八年八月八日に着任して、一月七日には横浜居留地の測量を開始しています。プラントンの計画では、

慶応二(一八六六)年の「横浜居留地改造及び競馬場・墓地等約書」に基づく、新埋立居留地の埋立、街割と下水道整備、横浜公園と日本大通りの設計、堀割川の浚渫と拡幅が一八七一年に提出され、図面ものこっていますが、これに先行して、一八六九年三月の旧居留地と旧埋立居留地の陶管下水道、道路整備計画があるわけです。

館長 この計画は実現したのでしょか。

早稲田 一八六九年一二月着工したことは、当時の英字新聞にブラントン自身が書いており、英領事報告書には一八七二年完成とでています。プラントンの陶管が発掘されたことはありませんけれど

も、新埋立居留地の工事は、一八七一年に着工して、七四年と七年の間に完工している。

館長 調べるところですが、こ

れは土管とは違うのでしょうか。『公文録』に記されており、その後、『土管』が使われた時期もありますが、現在の用語です。常滑では幕末まで、水門とか、いたちくぐりといっていたようで、土管は輸入品のアーチン・パイプの直訳です。

館長 年表の明治二三(一八八〇)年一二月のところに、煉瓦管に改造の同書を提出ということがでてきますが、陶管を煉瓦管に改造する理由はどんなことでしようか。

早稲田 陶管の一部が破損したこと、居留民人口が増えてきて污水がつまるケースがでてきた。それでその年の七月から新規に本管につなぐことを禁止し、改造工事の調査を始めた矢先の九月、レンニーという英人が新築家屋の地先を購入したことはつきり分り、分析結果と一致したわけです。その他、鉄物類、塵芥止めなどは工部省の赤羽工作分局から買った。セメントは購入先を具体的に記載していないけれども、外國製かと考えています。さらに『公文録』によれば、集治監から煉瓦を購入したことは上程されました。

この年、横浜区本町ほか一三か町の下水用石材費の予算が上程されました。これはいったん否決されますが、明治一五年の神奈川県地方衛生会では、さきの三田善太郎が、予算が削減されて全部を石造とすることができないので、底を木造にせざるをえないと答弁しています。また、明治二年には、便所下水構造規制がだされ、各戸の下水に良質の陶管を使用し、大下水に接続することとしました。沖守固善太郎によってなされたことがわかりました。日本人技術者による初めての本格的下水道計画ということがあります。この工事は、二期に分けて、四年位でやるつもりだったのですが、松方繁縟財政のさ中だったため、認可が遅れ、

と、この資料館の地階閲覧室から実物をみることができます。容積的には四倍以上になります。

館長 この資料館では、四月二七日から特別展「日本の赤煉瓦」展を開催する予定で準備をすすめており、横浜居留地下水道に使われた煉瓦も出品することになっています。この煉瓦は東京の小菅集治監で、囚人労働によつてつくられたものということですが。

早稲田 調べはじめの時はどこで焼かれたのかわかりませんでした。それでも分析してもらつたのですが、関東ローム層の土をつかつたもので、それも横浜近辺のものでなく、東京の隅田川から江戸川にかけての本所・深川あたりの土だということがわかりました。その後、『公文録』によつて、集治監から煉瓦を購入したことはつきり分り、分析結果と一致したわけです。その他、鉄物類、塵芥止めなどは工部省の赤羽工作分局から買った。セメントは購入先を具体的に記載していないけれども、外國製かと考えています。さらに『公文録』によれば、集治監から煉瓦を購入したことは上程されました。これはいったん否決されますが、明治一五年の神奈川県地方衛生会では、さきの三田善太郎が、予算が削減されて全部を石造とすることができないので、底を木造にせざるをえないと答弁しています。また、明治二年には、便所下水構造規制がだされ、各戸の下水に良質の陶管を使用し、大下水に接続することとしました。沖守固善太郎によってなされたことがわかりました。日本人技術者による初めての本格的下水道計画ということがあります。この工事は、二期に分けて、四年位でやるつもりだったのですが、松方繁縟財政のさ中だったため、認可が遅れ、

第一期の旧居留地分は明治一四年一二月に着工して、一六年度完成、第一期の新・旧埋立居留地分は明治七年から二〇年までかかつて

います。

なり整備されていたと思います。昨年、馬車道に、幅一メートルほどの石造暗渠が残つてゐることが分つた。居留地煉瓦造下水道と同時期のものではなかろうかとみています。

館長 明治後期の横浜市の行財政をみて、下水道関係は道

路費の一部で下水修繕費としてでてくる。額としてもしていまして、どうも旧居留地以外の下水道の整備はあまりやられていないのではないかという感じがするんですね。

早稲田 明治三三(一八九九)年の居留地撤廃に伴う調査によれば、関内・山手両居留地の管渠、側溝延長は約八八キロでした。それが『浜復興誌』では、震災で破損したものと残つたものの合計は二三五キロとなつていて。これには側溝が勘定に入っているのかどうか不明ですが、震災前までに下水道整備をかなりやつたといえるのではありますね。

早稲田 明治三三(一八九九)年の居留地撤廃に伴う調査によれば、関内・山手両居留地の管渠、側溝延長は約八八キロでした。それが『浜復興誌』では、震災で破損したものと残つたものの合計は二三五キロとなつていて。これには側溝が勘定に入っているのかどうか不明ですが、震災前までに下水道整備をかなりやつたといえるのではありますね。

この年、横浜区本町ほか一三か町の下水用石材費の予算が上程されました。これはいったん否決されますが、明治一五年の神奈川県地方衛生会では、さきの三田善太郎が、予算が削減されて全部を石造とすることができないので、底を木造にせざるをえないと答弁しています。また、明治二年には、便所下水構造規制がだされ、各戸の下水に良質の陶管を使用し、大下水に接続することとしました。沖守固善太郎によってなされたことがわかりました。日本人技術者による初めての本格的下水道計画ということがあります。この工事は、二期に分けて、四年位でやるつもりだったのですが、松方繁縟財政のさ中だったため、認可が遅れ、



早稲田 氏

館長 明治末期、横浜の市區改正に取組み、後に横浜貿易新報の社長になつた三宅磐が、「都市の研究」(明治四一年刊)のなかで、上水道は多くの都市でも整備されているが、下水道の整備は非常に遅れている。上水道が整つても下水道が整備されなければ、伝染病の予防には役立たないと指摘している。下水道施設の遅れた理由として、し尿処理の問題をあげている説があります。つまり、し尿は近郊農村に肥料として賣われていた、これに財政窮乏していた各都市の行政当局が目をつけ、し尿処理の市営化を図る、ということでし尿を下水として扱わなかつたのが下水道整備を遅らせる結果となつた、という理解ですが、いかがでしょうか。

早稲田 下水道の普及の遅れについて、よくそういうことがいわれています。けれども、横浜居留地の下水道は、明治一五年の「横浜外国人居留地下水吐管構造規則」によつて、し尿を流すことを禁止しています。し尿を肥料にしていています。だから下水道が発達しなかつたというのは、考え方が逆のような気がします。早い時期に下水道の建設に取組んだ仙台の場合ですと、道の真中にあつた用排水路と道路を拡幅するためにつぶして、代りに側溝をつくつたが十分に排水できなくて住環境が悪化した。そこで明治初年から下水道の要求が強

くあつた。つまり、下水道が完備されていなくても、それに代る排水路があつて、それなりに維持管理がなされれば下水道の要求もそれほど強くならないわけですね。

館長 戰前などでは、側溝の掃除を地域住民があるルールをもつてやつたことはありますね。都市史の研究は一般的に遅れている分野で、社会科学の面ばかりではなく、ハードな都市施設に関する面の研究も今後重要な面になります。下水道も都市生活史のうえで大きな役割を担つてます。今日は、横浜の都市史研究を進めていくうえで重要な問題を早稲田さんからお伺いすることになりました。

早稲田 その意味では、文献資料ばかりでなく、歴史を直接に物語つてくれる実物の保全、いままで断片的にはいくつか発掘され、記念物として保存されているわけですが、より計画的・体系的な調査と発掘が、研究を進めていくうえで不可欠だと思います。

館長 どうも長時間ありがとうございました。

(去る三月十五日の対談です)

プロフィール・横浜下水道の先駆者

ブラントン (R. H. BRUNTON)

経歴不詳。明治三(一八七〇)

横浜二番目の鉄橋となつた都橋

一八四一(天保一二)年、スコットランド、エバーデンシャー

年、神奈川県に「外国人居留地

(明治一六年)も彼の計画によ

一八六八(明治元)年八月

道路下水修造差配方」として雇

る。次いで、横浜創設水道(明

八日灯台技師として来日、横浜

弁天(現在北仲通六丁目第三管区海上保安本部所在地)を根拠地として、神子元島、菅島、犬吠崎など各地の灯台建設にあたつた。この本業の他、明治初頭

われ、ブラントンの立案になる

一八六九(明治二)年八月

居留地陶管下水道の工事監督を

港工事(明治二二一二九年)に

一八七〇(明治三)年没。山手外

人墓地に眠る(本誌第九号 横

マカダム式舗装を実施した。明

治二〇(一八七〇)年没。山手外

マカダム式舗装を実施した。明

治二一(一八七一)年没。山手外

人墓地に眠る(本誌第九号 横

浜人物小誌 参照)。

三田善太郎

東京大学理学部土木工学科第

が市に移管されると、市の嘱託

一回卒業生。安政二(一八五六)

を受けて改良・拡張に取組み、

二九年からは市専任技師工師

一八七八年卒業後、助教として

二九年となって横浜水道第一期拡張

工事を完成させている。同四〇

年生。谷田部藩の貢進生として

二九年から市専任技師工師

二九〇七年退官。その後は新

潟市、鳥取市、下関市の水道工事

に關係した。昭和四(一九二九)

年没。明治二二年から約三〇年

間横浜にあって、横浜のまちづ

くりに大きな業績をのこした。

米元晋一

明治三六(一九〇三)年東大

土木工学科卒。東京市技術下水

道改良課長。東京市三河島汚水

処分場を設計。大正一一(一九

二二)年一二月二〇日「横浜市

下水調査ニ関スル事務ヲ嘱託」

年、三月一〇日帰国。灯台寮は任期満了の明治九(一八七六)年三月一〇日帰国。灯台寮は一年の在外顧問を彼に求めていた。その後は、パラフィン・オイル会社の支配人、建築装飾品店の経営にあつたことが伝えられている。(一九〇一(明治三四年ロンドンにおいて没)デービス(T DAVIS))

三田善太郎は、着任時がコレラ流行の折と重なり、まずもつて上下水道の整備に取組み、木桶水道の改良、ブラントンによる陶管下水道の煉瓦管への改造、関内石造下水の建設にあつた。

明治三六(一九〇三)年東大土木工学科卒。東京市技術下水道改良課長。東京市三河島汚水処分場を設計。大正一一(一九二二)年一二月二〇日「横浜市下水調査ニ関スル事務ヲ嘱託」

『ジョセフ・彦と横浜の新聞』展

記念講演会

去る三月二十四日、当館講堂において「ジョセフ・彦と横浜の新聞」

展を記念し、田中彰（北大教授）

氏と近盛晴嘉（元帝塚山短大教授）

氏のお二人を講師にお招きし講演

会を開催しました。当日は百人を

越す聴講者で満員となりました。

講師が、幕末から明治にかけて

偉業を成し遂げた先駆者たちの足

跡を熱っぽく講演されたのに對し、

聴講者は、一言も聴きもらすまい

と真剣なおももちで聞きいつてい

たのが印象的でした。以下に、講

演の要旨を簡単に報告します。

岩倉使節団と文明開化

明治四年（一八七一）一月、

岩倉具視を團長とする使節団が条

約改正のため渡米し、その後西欧

の先進文明国を広く視察し帰国し

ますが、田中先生はその時の記録

で「米欧回覧美記」をもとに、こ

の一行は条約改正の失敗はあつた

けれども、米欧各地を回覧する過

程で、何を見、何を考えたのか、

また文明開化にどのような影響を

与えたのかを見直す必要があると

いう観点から講演されました。

アメリカでは、宗教・教育そし

て議会に強い関心をもち、車中で

おおいに議論されたこと、更にイ

「回覧」体験の内容に特別の注意を払う必要のあることを指摘し終われました。

ジョセフ・彦と海外新聞

彦研究の第一人者であります近

盛先生は、彦関係資料の収集に情

熱を注がれ、国外へも御自身でも

とめられに行き、また「淨世夫彦」

記念会を作られ主催されておりま

す。当講演では、長年にわたる研究

の蘊蓄を熱っぽく披露されました。

彦は、天保八年（一八三七）に

現在の兵庫県播磨町に生まれ、一

三歳の時、遠州灘で遭難し、漂流

のすえ米船に救助され、やがて彦

た、ということなどが紹介されま

した。ロシアについては、大国の

先人觀を抱いて行つたが、実際に

から日本のモデルとの印象を抱い

た、ということなどが紹介されま

した。ロシアについては、大国の

先人觀を抱いて行つたが、実際に

は日本でみている異感とは違う、

といった印象を受けていること、な

ど独立を保持できるのかに強い関

心を示したという。

プロシアでは、ビスマルクの演

説を直接聴いたが、その中で「国

際社会では正義とかは通用しない、

大国の力によって左右される」と

の一行は条約改正の失敗はあつた

けれども、米欧各地を回覧する過

程で、何を見、何を考えたのか、

また文明開化にどのような影響を

与えたのかを見直す必要があると

いう観点から講演されました。

この一行には明治を代表する政

治家が多く加わっていたことから

文明開化推進を見る場合、彼等の

れました。こうした建言書は幾つか存在していることから、彦のもう一つの顔にも詳しく触れられました。彦は、これ以外にも多方面にわたる偉業をつくされたことが紹介され、あらためて明治を考える場合の、ひとつの指標として彦を見直す必要のあることを提唱され終られました。

(阿)

ス瓦ほどには一般受けしていない理由かと思われる。有孔煉瓦は、製法的にブランド銘を入れるのが難しいのであるが、普通煉瓦には銘入りのものが存在している。

当館所蔵の銘入りジエラール煉

瓦は、横浜市緑政局中部公園綠地事務所から提供を受けたもので、

煉瓦の平の面中央に、月桂樹の葉に囲まれて「ALFRED GERARD」

の銘がはっきりとアレスされています。

(一頁から)

ドの出現が関係しているかもしれません。そう考えると、今まで初期型に分類しておいた四タイプの中

に偽物がまぎれこんでいることに

なろうか、シロクロの決着はさし控えておこう。

この日本煉瓦史上最大の刻印も、

実際の構造物に使用されて積まれる時は、壁の中に入つて見えなくなつてしまふ。無用の刻印かとも思える。最初は宣伝用の見本煉瓦

と思つたこともある。しかし、

煉瓦史に詳しい東京大学生産技術研究所の水野信太郎氏の御教示に

よれば、平の面に窪みのある煉瓦

はヨーロッパによくあるものだそ

うだ。煉瓦と煉瓦の接着剤である

目地モルタルの付着をよくするた

めと理解されている。ジエラール

は、このヨーロッパ系煉瓦の窪み

を美しくデザインしたのだ。

このジエラール煉瓦、どういう

わけか完成品の発見例をあまり聞

かない。焼成がうまくいかず、早

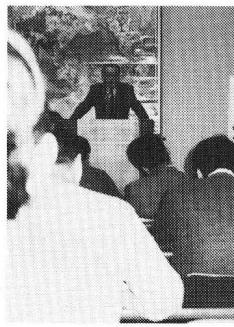
期の製造をやめてしまったのであ

るうか。あるいは、横浜居留地の

なかではかなり使われていて、案

外、瓦礫となつて山下公園に大量

に眠つてゐるのかもしだい。(良)



れました。こうした建言書は幾つか存在していることから、彦のもう一つの顔にも詳しく触れられました。彦は、これ以外にも多方面にわたる偉業をつくされたことが紹介され、あらためて明治を考える場合の、ひとつの指標として彦を見直す必要のあることを提唱され終られました。

(阿)

ス瓦ほどには一般受けしていない理由かと思われる。有孔煉瓦は、製法的にブランド銘を入れるのが難しいのであるが、普通煉瓦には銘入りのものが存在している。

当館所蔵の銘入りジエラール煉

瓦は、横浜市緑政局中部公園綠地事務所から提供を受けたもので、

煉瓦の平の面中央に、月桂樹の葉に囲まれて「ALFRED GERARD」

の銘がはっきりとアレスされています。

(一頁から)

ドの出現が関係しているかもしれません。そう考えると、今まで初期型に分類しておいた四タイプの中

に偽物がまぎれこんでいることに

なろうか、シロクロの決着はさし控えておこう。

この日本煉瓦史上最大の刻印も、

実際の構造物に使用されて積まれる時は、壁の中に入つて見えなくなつてしまふ。無用の刻印かとも思える。最初は宣伝用の見本煉瓦

と思つたこともある。しかし、

煉瓦史に詳しい東京大学生産技術研究所の水野信太郎氏の御教示に

よれば、平の面に窪みのある煉瓦

はヨーロッパによくあるものだそ

うだ。煉瓦と煉瓦の接着剤である

目地モルタルの付着をよくするた

めと理解されている。ジエラール

は、このヨーロッパ系煉瓦の窪み

を美しくデザインしたのだ。

このジエラール煉瓦、どういう

わけか完成品の発見例をあまり聞

かない。焼成がうまくいかず、早

期の製造をやめてしまったのであ

るうか。あるいは、横浜居留地の

なかではかなり使われていて、案

外、瓦礫となつて山下公園に大量

に眠つてゐるのかもしだい。(良)

資料よもやまばなし

小笠原貢藏と蛮社の獄

当館所蔵資料は英米等の外交文

書・日本政府関係文書・地方文書・

生糸商人関係文書・個人コレクシ

ョン等、バラエティーに富んでい

る。これらの資料のなかから比較

的まとまりのある事象を抽出し紹

介するのが該欄の狙いである。こ

の場合、必ずしも歴史的価値の高

い事象に限らない。というのは所

蔵資料をできるだけ広く紹介した

いという希望に基づいているから

である。

その主旨に合致する資料の一つに小笠原家文書がある。幕臣小笠原貢藏・甫三郎父子二代にわたる文書である。甫三郎については当誌で簡単に紹介したので、今回は父貢藏を巡って紹介したい。

貢藏と蛮社の獄

小笠原貢藏の名前を知っている人はごくまれであろう。後述するように、さまざまな歴史的事件に關係するが、下級幕吏であった関係から公文書等に記録される機会が少なかつたせいによる。

この人物は短期間ながら歴史の舞台に登場することがあった。それはベリーナの再来航からさかのぼること一七年前の、米船モリソン号来航風説契機として、幕府がそれに対する防備計画を着手し

た時に始まる。

天保九年（一八三八）、幕府は

オランダから寄せられた右の風説

により、房総豆相の備場設置に先

立つて測量を実施することとし、

その役を江川英竜と鳥居耀蔵の二

名に命じた。

江川は渡辺華山に測量家の選

を依頼し奥村喜三郎を得、鳥居

は小笠原貢藏にその役を命じた。

貢藏がどの程度の測量技術を持つ

ていたかは、彼の記録類からはお

よそ見当がつかない。後述するよ

うに、彼は蝦夷地に永らく在住し

見廻役に従事した際、間宮林藏な

どと接触した可能性があり、その

過程で技術を得たのかもしれない。

あくまでも推量にすぎない。また

養子甫三郎の伯父が奥村喜三郎であつた関係から推して「技術」を

介して知り關係にあつた可能性もある点から、その心得はあつたの

であろう。

いずれにしろ、貢藏は鳥居の輩

下として大役を担うこととなつた。

しかし、この備場見分一件は思わぬ事態を生むこととなる。すなわち、江川と鳥居の対立、そして蛮

社の獄を惹き起すことになったの

である。その原因と経緯は、鳥居

は、江川が華山に援助を求めたこ

とに反感を抱き、「鳥居が隨行を阻止した奥村の補充として華山が自藩（田原藩）の上田喜作を派遣するに及んで両者（鳥居と江川）の確執が表面化するに至つたものと解せられる」（佐藤昌介氏「蛮社の獄の真相」カッコ内は筆者注記である）といわれる。つまり、

両者の対立は華山絡みで惹き起されたのである。

洋学的見方に立脚し執筆活動を行ない、かつ洋学愛好家たちの集

まりである尚歎会をひきいる華山に対し、幕府のイデオロギー林家

の出身である鳥居（林述者の一男）は嫌悪を抱いた。その上に、前述の備場見分の復命書作成にあたり、

見廻役に従事した際、間宮林藏などと接觸した可能性があり、その

過程で技術を得たのかもしれない。

あくまでも推量にすぎない。また

養子甫三郎の伯父が奥村喜三郎であつた関係から推して「技術」を

介して知り關係にあつた可能性もある点から、その心得はあつたの

であろう。

この紹介は一応省略するとして、

華山に意見を求め、華山がそれに応えた事実が事態を拡大した、といわれる（佐藤氏前掲論文）。

翌年五月、蛮社の獄が始まつた。

この紹介は一応省略するとして、

この獄と貢藏との係りに焦点をあてみたい。彼が該事件と具体的にどのように係つたのか、未詳部

分が多く現在迄はつきりしていない。が、貢藏の記録の中には、華山・

斎藤次郎兵衛・山口屋彦兵衛・そ

の他の探索書の下書きが存在して

いるところから事件との係りをうかがわせる。また、華山逮捕の際

押収した蔵書の目録が作成され、

危険視された書物の摘発の過程で

「第三拾三番キリスト」なる本

の内容鑑定の必要が起り、天文方

川路左衛門に依頼しその結果書を

添付し、上司鳥居へ上申した時の控が存在する。その差出者の一人は認められるものの、明かに文記である」といわれる。つまり、

鳥居は、水野忠邦の罷免後、失脚。貢藏は天保一三年、長崎奉行

与力、天保一五年、江戸城二の丸火の番（60俵一人扶持）となり、

養子甫三郎に相続した。一連の事

件に係わったことによる罪はとわ

れなかった。幕府の要路者だけが

責任を負つた、という形をとつた

のだろうか。

貢藏の略歴

最後になつたが、貢藏の略歴に

ついて簡単に紹介しておく。左掲

の略年表は彼の手になる添削著し

い難解な履歴書から作成したもの

であるが、彼は江戸へ来る37歳迄

は、ネムロ・クナシリ・エトロフ・

カラフトの見廻役、すなはちロン

ア船の警備役であった。一時交易

漂流民受取に従事。

この過程のことを記して、彼は

興味ある事項をさりげなく披瀝し

ている。その箇所一写真一は次の

よう前に読める。

この部分は、記憶年号に不正確さは認められるものの、明かに文記である」といわれる。つまり、

嘉兵衛と露艦長ゴローニンとの交

換事に関する記事である。この場

面に立会つたのである。ただ、

ゴローニンの「日本幽記」には彼の名前を見出すことはできない。

なお北方警備を止め江戸城へ來ることになった直接的な契機は親戚に幕臣があり、その跡跡襲に

よつてであった。

紙幅の関係上、簡略な紹介になつてしまつたが、開港・開港前夜

に起つた重大な事件の渦中に下級

幕吏として歩んだ貢藏と関係文書

の所蔵を紹介し擲筆することとし

たい。

（阿）

貢藏の略年表

文化9
ネムロ見廻。

文化10
クナシリ見廻。

文化12
エトロフ島警備。

文政1
ソウヤ詰。カラフトへ。

文政6
江戸へ（三七歳）。

天保10
蛮社の獄

天保13
長崎奉行与力。

去末年海上二而被捕候高田や嘉兵衛并卯年エトロフ島二而召捕候五郎次、上陸之上私を乞、魯西亞船帰帆いたしネモロ場所へ罷帰

横浜人物誌

7

幕府歩兵隊兵士

喜太郎

になる。彼は、この訓練を通じて、隊列行進・西洋銃など西洋の文物に初めてふれることになった。

この訓練は五ヵ月間続けられ、五月に入つて屯所での軍事伝習は終了した。その後、歩兵たちは各

ここに紹介する喜太郎は、相模国高座郡大庭村（現在藤沢市）の農民である。といつても有名な人物ではなく、彼のことを知つているのは、子孫の方を除けば、おそらく私一人だけであろう。このよ

うな無名の人物をあえてとりあげたのは、彼が近代的な軍隊に徴兵された日本で最初の農民の一人であつたからである。

ここでいう近代的な軍隊とは幕府歩兵隊のこと、幕府が農民の徴兵によつて歩兵を編成することを決めたのは文久二年（一八六二）のことであった。幕府は、文久年間（一八六一～一八六四）以降、西南雄藩との対立の激化から強力な軍隊の設立にせまられていて、その過程で西洋諸国の軍事組織を導入した歩・砲・騎の三兵が設立され、歩兵については農民から徴兵することになつたのである。

当初の徴兵は、知行高五〇〇石以上の旗本の知行地農民に限つて実施され、幕府は一七才から四五才までの壯健な農民を歩兵隊に入隊させるように命じた。

さて、喜太郎は、徴兵が開始さ

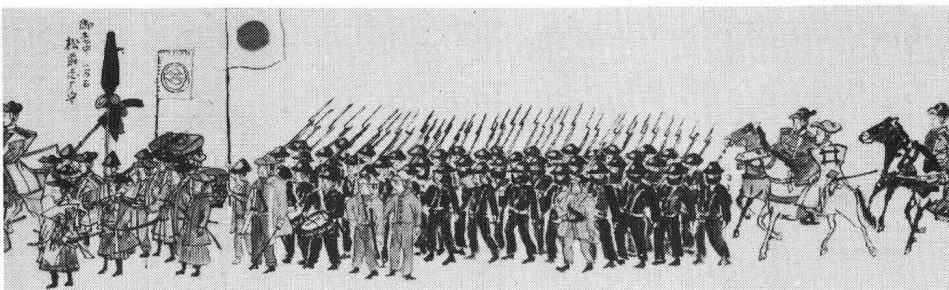
れた時には二十五才の青年であつた。彼はペリー来航後の政治的混乱の中で青春時代をむかえたことによつて、兵士として戦場へかり出されることを余儀なくされていく。

ここでは、徴兵から出兵に至るまでの喜太郎の動向を明らかにしておきたい。

幕府の徴兵命令が大庭村の名主の手元に届いたのは文久二年の二月のことであった。大庭村では誰を入隊させるかについての相談が繰りかえされ、その結果喜太郎が選ばれた。選出の理由については不明であるが、当時の農民の感覚からすれば、喜太郎は村から幕府に差し出した人身御供であったといえるかも知れない。

喜太郎が江戸の歩兵屯所にむけて大庭村を出発したのは文久三年（一八六三）一月一三日のことで、彼が入當したのは西丸下（現在東京都千代田区）の歩兵屯所であつた。

この屯所で、彼は幕府の武官からきびしい軍事訓練を受けること



行進する幕府歩兵隊（『徳川家茂 長防行軍之図』堀内久勇氏藏）

地に配属されていったが、喜太郎は「神奈川詰被仰付」と横浜の警備を命じられている。

この時、歩兵の多くが老中格の小笠原長行に従つて京都に連れていかれたことを考えれば、郷里に近い横浜に配属された喜太郎は幸運であつたといえるかも知れない。

しかし、政局の一層の混乱は、彼を横浜にとどめてはおかなかつた。元治元年（一八六四）以降になると、幕府は天狗党の鎮圧や長州征伐に歩兵隊を投入することを決定し、喜太郎も最前線にたたさる。そこで、出兵以前の喜太郎の様子を知らせる手紙を紹介しておこう。

「以御用状申達候、然は先達て中申達候大庭村兵賦喜太郎義出奔いたし候由、御役所より御達に付、先般右の次第申達候処、去ル九日呼出し付、大手前屯所へ罷出候處、喜太郎義八日屯所へ罷帰り、夫々相証歎願いたし、右に付不取敢敵重咎メ申付置候、喜太郎義度々不埒の儀有之候間、連帰り代り人差出可申と存候処、小頭共より拙者へ相歎候間、此度の儀は勘弁申候間、先代り人に不及候間、右の段御心得可被成候、此段申達候。」

手紙によれば、喜太郎は出兵を前にして屯所を脱走している。しかも、彼は日頃から「不埒の儀有之」と幕府の役人から言われるよ

うな兵士であり、彼を帰郷させ、代りの人物を徴兵するという話も出ていたというのである。幸い喜太郎は、しばらくして屯所に戻つたため脱走については不問にする記されている。

ところで、戦争への危機が高まる中で屯所を脱走したのは彼だけではなく、そのほかにも多数の歩兵が脱走を企てたといわれている。軍隊生活への不満が戦争勃発を前にして脱走という形で爆発したのであった。

そもそも徴兵制度は農民の負担を増加させるものでしかなかつた。働き盛りの農民が徴兵されれば、彼らの家族の生活は不安定なものになつた。また、当時の歩兵の給料は郷里からの送金で賄われていたため、これが郷里の村民の大きな負担となつていた。さらに、幕府は戦争への参加を強要し、彼らの命まで奪い取ろうとしたのである。しかも、その戦争は幕府を守るために戦つた。また、当時の歩兵の給料は郷里からの送金で賄われていたため、これが郷里の村民の大きな負担となつていた。さらに、幕府は戦争への参加を強要し、彼らの命まで奪い取ろうとしたのである。しかも、その戦争は幕府を守るために戦つた。

歩兵隊を批判したチヨボクレに「旗本共へも歩兵の夫役は玉げた咄しだ。からくり野郎を大勢集めて、なんの稽古が出来たるものか」というのがあるが、農民たちの支持を得られなかつた歩兵隊の姿をよく表わしている。（本稿を作成するにあつては藤沢市「三觜家文書」を利用した。）



近年、横浜でも、まちのそちこちで赤煉瓦タイルを貼った建物をみかけるようになってきました。都市空間に対する市民の関心がたかまり、質の高い建築が求められていることのひとつがあらわれかと思われます。今回の展示は、そ



行事開催予定(六〇年度)

▼展示 第一回特別展示『日本の赤煉瓦』(4/27~7/28)

第一回企画展示『絵はがきにみる横浜の明治・大正』(8/1~10)

として成熟した時代の横浜の姿を、

ニール・ペドラー・コレクション

ういつた赤煉瓦のルーツを探つてみようとする展示です。土を素材とした赤煉瓦は、木や石とならんで最も普遍的な建設用資材のひとつです。その歴史は洋の東西をとわず極めて古く、我が国にも仏教とともに伝来しましたが、良質な木材に恵まれた風土のためか、構造用材としての発展はあまりみられませんでした。日本における赤煉瓦の本格的な導入は、幕末期長崎、横須賀の軍艦とともに、良質な木材に恵まれた風土のためか、構造用材としての発展はあまりみられませんでした。日本における赤煉瓦の本格的な導入は、幕末期長崎、横須賀の軍

事工場から始まり、明治新政府による大坂造幣寮、富岡製糸場といった官営工場、鉄道や灯台の築造、銀座煉瓦街の建設などを通じて、各地で赤煉瓦の製造が着手されま

『日本の赤煉瓦』展 (4/27~7/28)

わゆる蒟蒻煉瓦はそのことを如実に物語っています。とはいっても、未知の赤煉瓦への取組みに度重なる失敗と大変な苦労がいたることは想像にかたくありません。満足のいく赤煉瓦を焼きあげた時の喜びはいかばかりであつたでしょうか。その赤煉瓦に押されている刻印に瓦師たちの心意気と誇りが感じられます。今回の展示の見どころのひとつです。

日本の赤煉瓦、明治を華やかに彩つた赤煉瓦は、幕末から関東大

震災までの五、六〇年の極めて短い時期に限られます。その短命さに愛惜の情をいだかれている方もおりましょう。また一方で、赤煉瓦独特的色合いと肌合いは、無機的な現代建築の中につけてその魅力を決してうしなつてはおりません。今回の展示が、現在の都市空間、そしてこれからのもちづくりを考える契機となれば幸いです。

なお、旧館1階記念ホールには、市内本牧町在住石田兵一氏所蔵のジエラール・コレクションを展示しています。合わせて御覧ください。

講座の申し込み方法

往復はがきに、希望する講座名・住所、氏名・職業、年齢

電話番号を記入の上、〒231横浜市中区日本大通3番地 Tel 201-2100 横浜開港資料館内(財)横浜開港資料普及協会「講座」係

講座料300円

(4) 古文書を読む会 市内地方文書
(1) 横浜市史講座前期 「横浜人物誌講座」 4/13・27 「ペリ

(2) 横浜市史講座後期 「開港期の横浜」 10/12・26 11/16・30 12/14 1/18 2/8・22 3/8・22 テーマ、講師未定 ガイダンス9/28(土)無料

(3) こども歴史講座 8月下旬
(4) 古文書を読む会 市内地方文書

講座の申し込み方法

名 住 所、氏 名、職 業、年 齢

電 話 番 号 を 記 入 の 上、〒 231 横

浜 市 中 区 日 本 大 通 3 番 地 Tel 201-2100 横浜開港資料館内(財)横浜開港資料普及協会「講座」係

入館無料となります。

する場合は、事前に申請すれば

ミニ情報報

▼寄贈資料 (一月~三月)

(1) 「特別海軍大演習 大觀艦式」

(2) 「英國領事館建築工事」ガラス乾板写真等(ベイカーベイツ氏)

(3) 「たまくす」第3号・特集「錦絵にみる横浜の賑わい」(700円)

(4) 映画「横浜の赤レンガ」「黒船渡來と瓦版」16ミリ・各15分

(5) 「その他」

(1) 4/27(土)~5/6(月)のゴー

ルーツを探る——イギリスとオランダ 講師・鈴木博之(東大助教授)・山口廣(日大教授)受

8・22 テーマ、講師未定 ガイ

ダンス9/28(土)無料